

26年4月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 3月20日～ 26年4月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/4月	5月	6月
仕入動向	国産材製材品	△ 33.3	△ 22.2	△ 5.6
	外材製材品	△ 27.8	0.0	0.0
	構造用集成材	△ 25.0	6.3	12.5
消費動向	国産材製材品	△ 16.7	△ 16.7	△ 11.1
	外材製材品	△ 22.2	△ 11.1	△ 5.6
	構造用集成材	△ 18.8	△ 6.3	12.5
在庫動向	国産材製材品	△ 11.1	△ 5.6	△ 16.7
	外材製材品	△ 16.7	△ 11.1	△ 5.6
	構造用集成材	△ 12.5	0.0	0.0

国産材製材品の仕入れは減少傾向で推移、外材は4月の減少が5,6月は横ばいに、集成材は4月のやや減が5,6月にはやや増に。

国産材製材品及び外材の消費は減少傾向で推移、集成材は4,5月の減少が6月は増加に。

国産材及び外材製材品の在庫は減少傾向で推移、集成材は4月の減少が5,6月には横ばいに。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	26/4月	5月	6月
受注	△ 11.1	0.0	△ 5.6
加工	△ 5.6	0.0	△ 5.6
受注残	△ 11.1	△ 11.1	△ 11.1

受注及び加工は4月のやや減少が、5月の横ばいを経て6月にはやや減少に、受注残はやや減少傾向で推移

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・需要の先行き不透明で国産材、外材及び集成材とも今後の受注量、見積物件を考慮しながら慎重に仕入れ、当用買いで充分対応できるので様子見ながら仕入れ。消費税駆け込みの反動は大きく、予想以上に動きが悪くなってきている。在庫量はある程度確保しており、ショートしないよう状況を見て在庫調整、コスト高の物をなるべく掴まないように注意する。
- ・消費税アップの対応で仕入れは減少傾向。消費は4月増大、6月減少と見込む。ストック分の加工が進み、在庫は、平準化に向かう。
- ・消費落ち込みに伴い仕入れ量は減少見込み、消費はプレカット製材、一般製材、合板共に動き鈍い。
- ・国産材、特にヒノキ製品の値の上下が極端。受注は減。
- ・受注は多いが加工に合わせた仕入れでやや増加。4月末～5月連休明けに上棟が重なって受注。(受注動向)
- ・見積物件が前年同月と比べ激減、消費税増税後の4～6月はかなりの苦戦を予想。
- ・受注、加工及び受注残共に梅雨前までは高水準で推移と予想。
- ・物件がかなり減少。